

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25381302

研究課題名(和文) インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究

研究課題名(英文) Research on Teacher Training Program to Realize Inclusive Education

研究代表者

鳥海 順子 (TORIUMI, Junko)

山梨大学・総合研究部・教授

研究者番号：60149424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、インクルーシブ教育を実現するための教員養成プログラムについて研究することを目的とした。第一に、初学者のための教材を作成し、第二に、通常学校の教員を対象にインクルーシブ教育に関するニーズ調査を実施した。その結果、多くの教員がインクルーシブ教育の基礎的知識を必要としていた。第三に、国内外の教員養成大学等を視察した。以上から、教員養成大学の教育課程で、障害に関する知識やインクルーシブ教育における指導方法を必修化することや障害児との臨床経験を持つことが重要であるとの結論を得た。

研究成果の概要(英文)：This study had the purpose to develop new teacher training programs for the inclusive education in Japan. In Part 1, the text book for all students of teacher training colleges was made and it was used in the class. According to the result, the contents of the text book were determined to be appropriate for students. In Part 2, teachers of ordinary schools were questioned regarding the requirements for teaching in inclusive class. As a result, most felt it important to have basic knowledge about inclusive education. In part 3, we visited other teacher training colleges in Japan and 3 countries. It was important that all teachers had knowledge about disabilities and methods for teaching an inclusive class. Students of the teacher training college should have valuable opportunities to encounter children with disabilities through voluntary activities at schools.

研究分野：社会科学・教育学・特別支援教育

キーワード：インクルーシブ教育の教員養成 教員養成プログラムの開発 通常学校の教員の質的向上 特別支援学級の教員養成 通級指導教室の教員養成 特別支援学校の教員養成 特別支援学校のセンター的機能 特別支援教育コーディネーターの養成

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 世界のインクルーシブ教育の動向

国連「障害者の権利に関する条約」第24条では、インクルーシブ教育を前提とし、障害に対応した合理的配慮の導入を求めている。ユネスコは「教育におけるインクルージョンのための政策方針」の中で、通常教育そのものの改革が必要とし、教員養成の改革にも言及している(UNESCO, 2009)。

### (2) 我が国のインクルーシブ教育の動向

我が国でも世界の動きをうけてインクルーシブ教育に向けての検討が始まり、2012年7月23日に中教審から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が示された。

### (3) インクルーシブ教育と教員養成

今後、我が国におけるインクルーシブ教育の実現に向けて、教員養成大学の役割が重要になる。すなわち、すべての教員が、障害に関する基礎知識や多様な児童生徒も含めた通常学級における具体的な指導法、学級経営、関係機関と連携する方法などを習得し、実践できることが望まれる(鳥海, 2012)。インクルーシブ教育の実現に向けて、通常学校教員の実践力の向上、特別支援学校教員の地域支援力(センター的機能)の強化が欠かせない。

### (4) 教員養成プログラムの開発

本研究では、教員養成大学における一般の教員養成コースから特別支援学校の教員養成コース、学部卒業後、現職も含めた特別支援教育特別専攻科や大学院までを体系化した教員養成プログラムの開発を行う。

## 2. 研究の目的

本研究では、インクルーシブ教育を実践するために必要な教員養成レベルを基礎プログラム、初級プログラム、中級プログラム、上級プログラムの4段階に分け、それぞれの教育プログラムを開発する。

## 3. 研究の方法

(1) 一般の教員養成に関する基礎プログラム用教材を用いた教育プログラム案を試行、評価、改善する。

(2) 初級・中級プログラムのための資料として、通常学校の教員に対するインクルーシブ教育へのニーズ調査を行う。

(3) 全プログラムのための資料として、先行的な取り組みを実施している国内外の学校や教員養成大学等の視察調査を行う。

## 4. 研究成果

### (1) 基礎プログラム用の教材開発

基礎プログラム用教材は、障害概念の理解、障害種別の理解、教育的支援の理解から構成され、初学者向けの基礎的内容とした。受講生の評価は、5点を最高として各内容の平均が3.97点、自由記述においても「教員になってから参考になる内容がある」など本教材は基礎プログラム用教材として概ね良好と考えられた。特に参考になった内容としては、「クラスにおける障害児と保護者への支援」、次いで多かったのは、「障害のとらえ方」「障害種の理解」であった。

### (2) 通常学校の教員に対するインクルーシブ教育へのニーズ調査

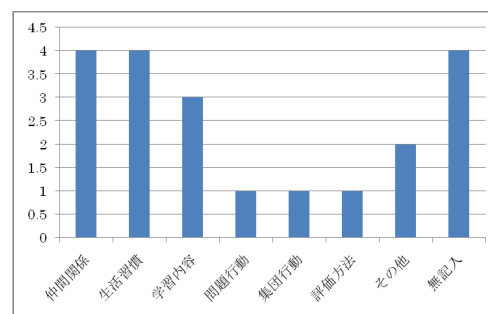


図1. 指導上の困難性

特別支援学級で指導上最も困難なことは、図1のように「仲間関係」や「生活習慣の確立」が多く、次いで「学習内容」が挙げられた。「その他」の内容としては、「生徒や保護者との信頼関係の構築」や「パニック」であった。通常の小中学校の多くの教員がインクルーシブ教育全般に関わる基礎的知識が必

要であることを指摘していた。

(3) 国内外の教員養成大学等の視察調査

インクルーシブ教育を先進的に進めてきた英国や米国等では、教員養成大学の全ての学生がインクルーシブ教育を学んでおり、今後我が国においても必修化が望まれる。英国では、通常学校の特別支援教育コーディネーターに長期間の研修が課せられ、力量を高めていた。一方、専門的な指導に対して各地域で専門家による巡回相談が行われていた。

(4) インクルーシブ教育に必要な教員養成のプログラム

本研究の目的は、我が国でインクルーシブ教育を実現するために必要な教員養成プログラムを開発することであった。最終年度にあたり、これまでの研究を総括した結果、4つのプログラムのうち、今後インクルーシブ教育を着実に進めるには、通常教育の教員の養成を強化する基礎プログラムと初級プログラムの充実が重要との結論に至った。特に、特別支援学級担当教員の資質向上が欠かせない。一方で、今後インクルーシブ教育が進展したとしても、特別支援学校の専門的な教育の場は不可欠であり、専門的な指導を確実に行える教員を養成しなければならない。本来、特別支援学校の教員と地域支援を行う教員の役割(専門性)は区別されるべきであり、養成も異なるべきとの結論に至った。

<引用文献>

外務省,障害者の権利に関する条約第 24 条 和文テキスト(仮訳文),2007.

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/hp/hr\\_ha/page22\\_000899.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/hp/hr_ha/page22_000899.html).

UNESCO, Policy Guidelines on Inclusion in education, 2009, pp.8-21.

中央教育審議会,共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告), 2012,pp.47-53.

鳥海順子(2012) 教育と医療・福祉・労働

等の「連携」に対する保護者のニーズ- 発達障害に対するネットワーク支援-, 山梨障害児教育学研究紀要,6,pp.55-64.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・吉井勘人,インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究 小学校の特別支援学級担当教員に対するニーズ調査 .山梨大学教育学部紀要,査読無,1,25, 2017,pp19 -25 .

佐久間大志・吉井勘人,小学校で行われているインクルーシブ教育の取り組み 担任教師への質問紙調査を通して .教育実践学研究(山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要),査読無,22, 2017,pp 23-34.

<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/center/kenkyukiyou.html>

渡邊雅俊,教員養成前期段階の大学生におけるインクルーシブ教育実践の準備性の特徴.國學院大學人間開発学研究,査読無,8, 2017,pp1-13.

鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・吉井勘人,インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究 特別支援学級(中学校)の教員に対するニーズ調査 山梨大学教育人間科学部紀要,査読無,17, 2016,pp.19 -28.

鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・渡邊雅俊,インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究.日本教育大学協会研究年報,査読有,33, 2015,pp. 227-237.

渡邊雅俊・鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・吉井勘人,教員養成大学生の「障害の説明力」の特徴 インクルーシブ教育を推進できる教員の養成を目指す

して 教育実践学研究 (山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要), 査読無, 20, 2015, pp. 219-226.  
<http://www.cer.yamanashi.ac.jp/center/kenkyukiyou.html>

鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・渡邊雅俊, インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究 大学の授業における基礎プログラムの検討 . 山梨大学教育人間科学部紀要, 査読無, 15, 2014, pp.1-7.

鳥海順子・廣瀬信雄・小畑文也・古屋義博・渡邊雅俊, インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究 基礎プログラム用教材の作成と評価 . 山梨障害児教育学研究紀要, 査読無, 8, 2014, pp.41-49.

古屋義博, 特別支援教育特別専攻科の教育課程に関する一考察 入門期にある学生の実態 . 山梨大学教育人間科学部紀要, 査読無, 15, 2014, pp.33-46.

古屋義博, 特別支援教育特別専攻科生を対象とする日課外授業「朝学」の効果と課題 教員養成 1年課程という制約へ対応 . 山梨障害児教育学研究紀要, 査読無, 8, 2014, pp.90-101.

[学会発表](計 6件)

磯貝順子(鳥海順子の学会ネーム), インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究 特別支援学級(小学校)の教員に対するニーズ調査 . 日本特殊教育学会第54回大会発表論文集, P12-6. 2016年9月19日新潟日報メディアシップ(新潟県新潟市).

渡邊雅俊, 教員養成大学生のインクルーシブ教育実践の準備性に関する検討 教育実習事前指導期の教育体験活動が及ぼす影響について . 日本教育心理学会平成28年度第58回総会発表論文集, PC65. 2016年10月8日サンポートホール高松・かがわ国際会議場(香川県高

松市).

磯貝順子, インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究 中級プログラム・上級プログラムの検討(1) 日本特殊教育学会第53回大会発表論文集, P7-5. 2015年10月19日. 東北大学(宮城県仙台市).

磯貝順子, インクルーシブ教育に必要な教員養成に関する研究 大学の授業における基礎プログラムの検討 . 日本特殊教育学会第52回大会発表論文集, P1-1. 2014年9月20日. 高知大学(高知県高知市).

磯貝順子, インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究 大学の授業における基礎プログラムの検討 日本特殊教育学会第51回大会発表論文集, P1-1-12. 2013年8月30日, 明星大学(東京都日野市).

鳥海順子, インクルーシブ教育を見据えた教員養成に関する研究 基礎プログラムの実施と課題 . 平成25年度日本教育大学協会研究集会発表概要集, pp.228-229. 2013年10月5日, 札幌全日空ホテル(北海道札幌市).

[図書](計 1件)

小畑文也・鳥海順子・義永睦子編・鳥海順子・義永睦子・榊原剛・渡邊雅俊・広瀬信雄・里見達也・小畑文也・手塚知子・古屋義博・宮井清香, コレール社, Q&Aで学ぶ障害児支援のベーシック. 2013年. 総ページ数220頁.

(pp.11-24, 37-50, 53-64, 77-100, 113-136, 151-162, 175-198).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥海 順子 (TORIUMI, Junko)  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号: 60149424

(2) 研究分担者

廣瀬 信雄 (HIROSE, Nobuo)  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号:10218844

小畑 文也 (OBATA, Fumiya)  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号:20185664

古屋 義博 (FURUYA, Yoshihiro)  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号:60324175

吉井 勘人 (YOSHII, Sadahito)  
山梨大学・総合研究部・准教授  
研究者番号:30736377

渡邊 雅俊 (WATANABE, Masatoshi)  
國學院大學・人間開発学部・教授  
研究者番号:40367602